

3. その他について

質問 3 - ①

保護者はもちろん、地域の方からも意見を聞いていただき、進捗状況もわかりやすく広めてもらいたい。

回答

全体的な合意が得られ、統合を進めていくのであれば、進捗状況や今後の情報をホームページや広報、保護者用メールでお伝えし、保護者や地域の皆さまのご理解とご協力をえながら進めていきます。

質問 3 - ②

母校がなくなると寂しい。統合すれば地域が疲弊してしまうのではないか。

回答

地域の文化施設や精神的支柱という側面を学校が持つことは十分に認識しています。しかし、中学校は本来義務教育の施設であることから、子どもの学習の場としての機能を高めていくという教育論を第一に考えていくことが必要です。子どもたちを学校教育の中でたくましく豊かに成長させていくことが、何よりも市が将来にわたって発展していくための礎になると考えます。

その上で、学校を統合した後に、新しい学校と地域住民のつながりをどうつくっていくか。どのように市の活力をつくりだしていくのか、地域として考えていただきたいと思います。

質問 3 - ③

統合すれば、地域が寂れてしまうのではないか。

回答

学校は大きく 2 つの役割をもっていると考えています。

1 つ目は、地域にとっての学校の役割で、防災の施設、文化やスポーツの活動の施設、地域の拠点的な役割、地域コミュニティのシンボル、精神的な支柱などです。

2 つ目は、子どもにとっての学校の役割で、義務教育のための施設であり学習の場、人間形成の場、地域の将来を担う人材を育成する「教育の場」です。地域の文化施設や精神的支柱という側面を学校が持つことは十分に認識しています。しかし中学校は本来義務教育のための施設ですから、子どもの学習の場としての機能を高めていく、という教育論を第一に考えることが必要でないかと思えます。子どもたちを学校教育の中でたくましく豊かに成長させていくことが、市が将来にわたって発展していくための礎になると考えます。

その上で、学校を統合した後に、新しい学校と地域住民のつながりをどうつくっていくか。どのように市の活力をつくりだしていくのか、何かあればご提案いただければと思います。

質問 3 - ④

複式学級になる人数は何人なのか。

回答

小学校においては二つの学年を合わせて 16 人以下（1 年生を含む場合は 8 人以下）となる場合です。中学校では、二つの学年を合わせて 8 人以下となる場合です。

質問 3 - ⑤

複式学級の授業はどのようになるのか。

回答

本来は別々に授業をしなければいけない学年が一つの学級になることを複式学級といいます。国語や算数などすべての教科において、1年生から6年生まで段階を追って内容がレベルアップしていきますので、例えば、2年生と3年生が複式学級になった場合、最初の10分間は2年生の授業をするのであれば、3年生はその間に前回の授業の復習をします。その後、3年生の授業をするため2年生には復習・発展的な学習（※）をしてもらうというように、授業の中で担任の先生から直接指導してもらえない時間帯が出てきます。

※ 発展的な学習とは、事前に学習した内容の理解をより深める学習や更に進んだ内容についての学習のことをいいます。

質問 3 - ⑥

複式学級を解消するために教頭先生が学級を担当する場合、教頭先生は忙しい立場にあり、他の教員にも影響を及ぼすことになる。再編するまでの期間は特例として教員を一人増やすことはできないのか。

回答

小学校・中学校の教員は県教育委員会の人事によって決定されますので市教委としては県教委に対して増員を要望していくこととなります。

市教委が独自に配置する教員は、授業の補助はできても学級を担当することはできないということになっています。

質問 3-⑦

子どもが減ることが前提のように言っているが、今後吉野川市で子どもを育てようと思ってもらえるような取り組みは考えていないのか。

回答

人口増は吉野川市全体で取り組むことなので、教育委員会で具体的に何かということでは、例えば、移住促進のための若者世代の市外からの転入を促進する『しあわせ住まいづくり支援事業』、子育て支援の推進のための『育児用品購入費助成事業』、18歳の年度末まで拡大した『はぐぐみ医療費助成事業』、経済的な理由で大学等への修学が困難な方に対して返済義務のない『吉野川市未来へつなぐ応援給付金事業』などがあります。

質問 3-⑧

保護者や地域の理解が得られたという判断基準はあるのか。

回答

今のところ具体的な判断基準は持っていません。どのような状態になったらご理解、ご協力が得られたのかという判断は難しいと思いますが、地元に出向いて行って説明させていただく中で、まだご理解をいただけていないのか、ご理解いただけたのかという判断をする時期が来ると考えています。

質問 3-⑨

アンケートはとらないのか。

回答

今回は、鴨島東中学校区の未就学児の保護者、小学校PTA・中学校PTAの方を対象とした説明会を開催しております。ご意見を集約した上で、アンケート調査も検討したいと考えています。

質問 3 - ⑩

制服や体操服などの移行はどうなりますか。2・3年生は、残り1, 2年で買う必要はありますか。

回答

全体的な合意が得られ統合する場合、保護者の皆様になるべく負担をかけないことを念頭に、今後準備委員会（仮称）で検討していく予定です。また、旧の制服や体操服の着用できる移行期間などについても検討していく予定です。

質問 3 - ⑪

通学支援はどうするのか。
統合する場合、スクールバスを出してくれるのか。

回答

文科省の考え方では、小学校は4キロ以内中学校は6キロ以内が妥当であると示されていますが、吉野川市学校再編計画（素案）では、中学校の通学方法は、原則として徒歩又は自転車とし、その通学距離はおおむね5キロメートル以内とし、これを超える場合は、通学支援を検討することとなっています。

机上ではありますが、上浦・牛島・森山地区も鴨島第一中学校を中心とした5キロメートル圏内にあることから、現在は支援を想定しておりません。

しかし、全体的な合意が得られ再編する場合は、準備委員会（仮）等で支援の可否、方法等について検討することは、可能だと考えています。

質問 3 - ⑫

統合する場合、最短で何年度になるのか。

回答

学校再編スケジュールとしては、保護者、地域への説明会、学校現場の準備、また、現状では教室数が不足されると思われるため、校舎増築等に要する期間を考慮しますと、最短で令和8年4月と考えています。

質問 3 - ⑬

市教育委員会としては、学校再編をどうしたいのか。

回答

学校再編計画（素案）の概要で申し上げましたように再編対象校の要件として中学校では単学級が見込まれる場合としております。

それに加え基本方針の②にありますように、保護者や地域住民の理解と協力が得られることが重要であると考えております。

そのため、（素案）公表から9年あまりが経過した現在、社会情勢や子どもを取り巻く環境も大きく変わっております。加えて、保護者の多くも変わられていると思われるため、改めて皆様のご意見をお伺いしたいと考え説明会・意見交換会を実施する運びとなりました。

質問 3 - ⑭

保護者が声を上げれば中学統合の話は進むのでしょうか。

回答

学校再編計画（素案）の概要で申し上げましたように再編対象校の要件として中学校では単学級が見込まれる場合としております。それに加え基本方針の②にありますように保護者や地域住民の理解と協力が得られることが重要であると考えています。

質問 3 - ⑮

鴨島第一中学校との統合はどのような条件で進むのか。

回答

牛島小学校・森山小学校・鴨島東中学校のPTAの方、未就学児の保護者を対象とした説明会を開催します。その後、全体的な合意が得られ統合する場合は、準備ができ次第、学校再編準備委員会を立ち上げ、統合へ向けて内容を精査する予定としています。